

# 制約から解放 V字回復急ぐ

## エルメ、マイカルから完全独立



岡元康蔵社長

内外の投資会社二社（ア  
ウトパフォーマー・インベ  
ストメント・リミテッド、  
イピサ）を新たなスポンサ  
ーに迎え、マイカルから完  
全独立した婦人服専門店の  
エルメ（本社大阪市）・商  
品仕入れや資金調達一つを  
とつても、これまではマイ  
カルの会社更生法開始決定  
で身動きがとれづらかった  
だけに、「制約から解放さ  
れたのは大きなプラス」と  
岡元康蔵社長は言う。

事実、昨年九月のマイカ  
ル破たん後は信用不安の余  
波を受け「商品の仕入れも  
通常の五〇％程度しか入ら

## マイカル以外にも出店

ず、仮に入っても希望した  
商品ではないケースが少な  
くなかった」。支援先がな  
ければ経営陣自らが買取当  
事者となるMBO（マネー  
シメント・バイ・アウト）  
も「選択肢として考えてい  
た」ほど。

しかし、イピサがマイカ  
ル所有のエルメ株を公開買  
い付けしてからは「様子見  
していた取引先も再開し、  
新規も増える」など、状況  
は一変した。一株五十円を  
下回っていた株価（大証第  
二部）は、四月下旬から上  
昇を続け、現在は二百五十  
円を超えるレベル。第三者  
割当増資や転換社債型新株  
予約権付社債の発行を含め  
た一連の財務対策で債務超  
過を解消し、借入金を全額  
返済するだけに、市場の反  
応は敏感だ。今後の資金調  
達を円滑にするうえで上場  
を維持できるエルメのメリ  
ットは大きい。

エルメの役員に就任した  
イピサの赤星裕二社長にす  
れば「（エルメの）企業価  
値からすると、買い付け価  
格の一株四十四円は割安。  
マイカルとの親子関係の制  
約で業績が伸びなかっただ  
け」と投資価値を示唆す  
る。

もつとも、投資会社が親  
会社になったことで、今後  
は短期間での業績回復が求  
められ、「株主主権」が鮮  
明になるのは必至。「マイ  
カルの傘の下にいたことと  
は違う」。そのため、前期  
末の店舗数九十七店を、上  
期中（三、八月）にはマイ  
カル関連のテナント中心に  
十九店閉鎖し、その一方で  
マイカル以外の出店を本格  
化する。新設した業務改革  
推進室を軸に資産効率を高  
め、「商品力の強化や店長  
のレベルアップ」などで、  
V字回復を狙う。